

かわさきく

川崎区



川崎区では、歴史を大切にしまちづくりを進めています。また、市内で唯一海のあるまちでもあります。

歴史を活かしたまちづくり 東海道川崎宿

江戸時代、東海道には五十三の宿場がありました。そのひとつが1623年につくられた川崎宿です。お江戸日本橋をスタートして、品川宿の次、多摩川を船で渡れば川崎宿。川崎宿が誕生して400年を迎える2023年にむけて、その文化と歴史をまちづくりに活かそうという市民団体が「東海道川崎宿2023」です。



丸型ポスト復活（砂子の里資料館前）

旧東海道に昔のまちなみを再現しようと、学校に寄贈されていた丸型ポストを、全国で初めて再利用しました。



坂本九さんの後輩です。

川崎区出身で旧東海道の近くで生まれた歌手坂本九さんが亡くなって20年。その日（2005年8月12日）、後輩の児童が坂本九さんの名曲を一生懸命歌ってくれました。

多くの人たちが訪れるまちへ！川崎歴史ガイド協会

多くの人たちに来てもらって、まちを元気にしようとがんばっているのは「かわさき歴史ガイド協会」です。川崎宿・川崎大師周辺・田島を中心としたいろいろな史跡を案内してくれます。

地域の歴史をより理解するため身近な地域に残されている昔の街道や史跡、景観などを調査、見学することを目的とした総合学習に、ガイドを依頼する小学校が増えています。メンバーは黄色の服を着てガイドしています。



メンバーはとても歴史に詳しい人なんだ！

まちづくり事例だよ！



地下街でもいろいろな案内をしているよ！

JR川崎駅東口の地下街アゼリアに、2006年（平成18年）6月1日オープンした観光案内所で案内しているのもガイド協会のメンバーです。午前10時から午後5時まで、市内の名所や物産などを案内しています。ここでは赤い帽子と青い上着です。

地域全体で盛り上げよう！川崎大師周辺

川崎大師駅前には古くから商店街があって、地域の人が商店街の人たちが集まって「まちづくりクラブ」をつくっています。夏といえば、「風鈴市」と「サマーフェスタ」。2005年（平成17年）に10年目となった「サマーフェスタ」は、吹奏楽のファンファーレでウォークラリーがスタート！記念うちわを片手に汗を流しながら子どもたちが名所を巡りました。



川崎区で生まれた「長十郎梨」。明治から大正時代が最盛期で、その後は新品種の登場などにより姿を消しました。

その長十郎梨の苗木を川崎大師駅前の若宮八幡宮境内に植樹した「多摩川クラブ」は、長十郎梨をPRするイベントを若宮八幡宮を中心に開催しています。

2005年（平成17年）9月5日には、大師駅前の商店街で約500個の長十郎梨を無料配布する試食会が開かれました。

トピックス1

海風の森へようこそ！

～海を感じることでできる森づくりを市民の力で～



2000年（平成12年）、市が各区に市民健康の森を整備することを決定、各区で構想検討委員会が立ち上げられました。川崎区では、市内で唯一海がある区という特色を活かした森づくりをしよう、という結論がだされました。これにもとづき、潮風に強い植生をもち、海風を受ける風車をシンボルとし、トンボやアサザなど、水生の動植物やそれが活動する環境とふれあうことでできるビオトープをもつ森をめざして、現在も「海風の森をMAZUつくる会」が活動を続けています。

まちづくり事例だよ！